

日が暮れるのが一段と早くなり、本格的に秋を感じる季節になってきました。朝と昼の気温差が大きい日も続いています。体調を崩している児童も徐々に増えてきました。近隣の学校と同様に、館野小学校でもマイコプラズマ感染症と診断される人も増えてきています。そこで、今月号はマイコプラズマ感染症についてお知らせします。

## マイコプラズマ肺炎とは

頑固なせきをともなう呼吸器感染症。小児や若い人に比較的多い。

## おもな症状

発熱や全身の倦怠感（だるさ）、頭痛、せきなどの症状がみられます（せきは少し遅れて始まることもあります）。せきは熱が下がった後も長期にわたって（3～4週間）続くのが特徴です。

## 感染経路

感染した人のせきのしぶき（飛沫）を吸い込んだり（飛沫感染）、感染者と接触したりすること（接触感染）により感染すると言われています。感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3週間くらいとされています。

## 治療方法

マイコプラズマ肺炎は、マクロライド系などの抗菌薬で治療されます。軽症で済む人が多いですが、重症化した場合には、入院して治療が行われます。せきが長引くなどの症状がある時は、医療機関で診察を受けるようにしましょう。

## 予防と対策

普段から流水と石けんによる手洗いをすることが大切です。また、感染した場合は、家族間でもタオルの共用は避けましょう。せきの症状がある場合には、マスクを着用するなど“咳エチケット”を守ることを心がけましょう。

<引用>

○厚生労働省ホームページ：マイコプラズマ肺炎  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/mycoplasma.html>